

簡単な自己紹介

内野 明 4/7/09 最終訂正, 4/6/01

生まれも育ちも横浜。横浜国立大学経営学部管理科学科卒業。この学科は入学試験に数学が当時の数Ⅲ（数学ⅠⅡⅢABC全体が試験範囲になっているようなイメージ）までであった上、入学すると、必修の教養科目と専門科目に数学が5教科あり、社会科学系でありながら理科系の経営工学科に一番近い学科でした。このころ数学をもっとまじめに勉強しておけば良かったと今でも悔やんでいます。

学部時代は個人的に会計とコンピュータの勉強に集中しました。この2つを選んだのは、両方できれば「一生食いはぐれにならない」と思ったからです。もちろん、これはまだコンピュータが珍しかった今は遠い昔の話です。その後大学院へ進学することになり、経営学や経済学もある程度勉強することとなりました。大学院では経営情報システムを専攻し、その一領域である意思決定支援システムで修士論文を書きました。

横浜商科大学の助手、専任講師、助教授を経て、当時は商学部全体の必修科目であった経営数学の担当者として専修大学へ移籍し、以後、経営数学と情報処理関連科目を担当してきました。私の基本的視点は数学というより、社会科学、とくにマネジメントがベースです。

現在の専門領域は、経営情報システム、マネジメントサイエンスであると説明しています。経営情報システムの他は、正確には、コンピュータシミュレーションの1つの手法であるシステムダイナミクス(SD)が得意だと表現した方が正確かもしれません。

専修大学の長期研修制度で1999年8月から2000年9月にかけて米国マサチューセッツ州にあるウースター工科大学(WPI: Worcester Polytechnic Institute)の客員研究員を経験しました。所属学部(Social Science & Policy Study)の学部長が知人だったこともあり、学部の講義を自由に受けることができました。国際会議の経験はあっても、海外で生活するのは初めてで、非力な英語力を向上させるための英語の勉強も当然ながら必要でした。

子供達も現地校を経験。全く言葉がわからない中で1年間過ごした息子は、算数の計算問題を10倍の速さで正解を出し、その存在感をアピールしました。娘の学校での経験も含めて、英語と数学が何ととっても国際語であると、身をもって再認識することになりました。

高い学費の元を取ろうと懸命に勉強する学生達と生活した留学の影響は大きく、帰国後ゼミ生に自主的に英語を勉強させようと意気込んだ時代もありました。

その後、商学部の企画構想委員長、入試委員長、教務委員長など、学部および大学の運営にたずさわる仕事もこなすようになりました。

英語については、現在も継続的に学び続けています。その一方、昨年度からビジネス英語の担当者として学生を指導しています。妻には、ビジネス英語の担当はさすがに納得できないといわれましたが、2年間だけ担当する予定の2年目、前言を翻させるように頑張ろうと思っています。

以上

「簡単な自己紹介」内野 明